

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [26126] 肺サーファクタントプロテインA (SP-A)

受託開始日

- 平成26年7月28日 (月)

肺サーファクタントプロテインA (SP-A)

間質性肺炎は、肺に空気を取り込む役割を果たしている肺胞を取り囲んで支えている間質という部分を中心に炎症を起こす疾患の総称です。間質は薄い肺胞壁ですが、炎症を起こすと肥厚し、線維化を起こして固くなり、呼吸をしてもガス交換が困難になります。

さらに線維化が進行し、肺が硬く縮むと蜂巣病変といわれる嚢胞が形成され、特に激しい運動などを伴わない日常生活の中でも呼吸困難を感じるようになります。

間質性肺炎には自己免疫疾患に合併する膠原病性間質性肺炎などがありますが、原因が不明なものも多く、それらを総称し特発性間質性肺炎と呼んでいます。また、特発性肺線維症は特発性間質性肺炎の中で最も予後不良とされ、早期診断・治療が必要となります。

肺サーファクタントプロテインA (SP-A) は、主要な産生源を肺胞Ⅱ型細胞とするサーファクタント特異的蛋白質の一つで、間質性肺炎のマーカーとして有用とされます。一般に診断には主に胸部画像検査が用いられますが、SP-Aは肺サーファクタントプロテインD (SP-D) とともに他臓器では産生されない肺特異性の高い蛋白であり、肺組織の破壊の程度を反映するものです。

また、特発性間質性肺炎の急性増悪期に急激に上昇し、治療が奏効すると低下するので、治療効果のモニタリングなどにも適しています。

検査要項

項目コード	26126
検査項目名	肺サーファクタントプロテインA (SP-A)
検体量/保存方法	血清 0.3mL / 冷蔵
検査方法	CLEIA
基準値	43.8ng/mL 未満
所要日数	3～5日
検査実施料	130点 ([D007] 血液化学検査 [36] 肺サーファクタント蛋白-A (SP-A))
判断料	144点(生化学的検査(I)判断料)
備考	[KL-6]、[SP-A] および[SP-D] のうち、いずれか複数を実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

参考文献

阿部庄作, 他: 日本胸部疾患学会雑誌, 33(11), 1219～1225, 1995.